

あらた、AI活用した物流センター、来夏稼働

2017年12月27日 23:05 [有料会員限定]

日用品卸大手のあらたは2018年6月に約30億円を投じて鹿児島市内に商品管理に人工知能（AI）を活用した物流センターを稼働させる。ピッキング（仕分け）作業の一部を自動化して作業効率を高める。効果を確認した上で、他の物流拠点にも同様のシステムの導入を検討する。卸売業では導入が進んでいないAIで物流の効率化を進める。

物流センターは地上3階建て、延べ床面積が約1万7千平方メートル。化粧品や洗剤、歯磨き粉などの取扱商品について、配荷前にサイズを識別してケースに分類するラインに、AIとカメラを搭載したロボットアームを数台導入する。鹿児島のセンターで取り扱う商品の4割程度で、同作業が自動化される見通しだ。

あらたは全国10カ所に大型物流センターを持ち、メーカー約1600社の12万品目を取り扱う。国内流通業の人手不足感が強まるなか、各物流拠点のシステム投資と自動化を加速している。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI No reproduction without permission.